

六郷特別出張所管内	
人口	男 35,047人
	女 33,482人
	計 68,529人
世帯数	35,571世帯
令和元年10月1日現在	

# 六郷わがまち

発行：地域力推進六郷地区委員会  
 編集：「六郷わがまち」編集委員会  
 事務局：大田区六郷特別出張所  
 〒144-0055 大田区仲六郷二丁目44番11号  
 電話 03(3732)4885  
 FAX 03(3735)6249

六郷わがまち

検索

## 六郷の成り立ちや歴史を知って、地域の魅力を再発見！



大田区でも有名なタイヤ公園、車窓からも見えます。

志茂田小・中  
(大倉陶園跡)

西六郷公園  
(タイヤ公園)

2017年にグリコ跡地に大型マンションができました。

プラウドシティ  
大田六郷  
(グリコ跡)

高畑小学校はここ10年、児童数約20%増。児童数減少の中、他校の約2倍の児童数です。

高畑小

六郷橋から臨む多摩川緑地は親子が遊び、運動を楽しむ姿が見られます。

グランイーグル多摩川アリオ他  
(山武ハネウェル跡)

マックスバリュ  
多摩川緑地



京浜東北線  
京浜急行本線

第一京浜国道

文政4年の記録では、全国の大名家総数262のうち、153家が東海道を通過したという。

雑色駅と京急蒲田駅間にあった出村駅は昭和20年の空襲で焼けると、廃駅となった。最寄りにあった東京計器が機能を停止し、利用客が減ったからようです。

○大田翔裕園(日興電機工業跡)

六郷工科高校ができる前は第一屋製パンで、さらにその前は宮田工業という日本最古の自転車製造の会社だったそうです。

青い屋根の東豊エステートは第一京浜沿いの地域初の高層マンションでランドマークになっているかも！



旧六郷木橋の遺構である親柱が六郷神社内に保存されています。

六郷に工場が多く出現するのは、関東大震災後、昭和三年の内務省の「工場地域」指定により急速に進んだためです。近年、移転した工場跡地にマンションや住宅ができています。新しく移ってきた人々にとっては、職住接近の地域としても、魅力再発見のまちではないでしょうか。

## 「六郷」わがまちです。

私たちが日々暮らすまちです。約半世紀前、わがまちには工場がたくさんあり、駅に着いた人々は改札を出て、それぞれの職場に向かいました。そして今、人々は改札に入り、それぞれの職場に向けて出発していきます。たった半世紀で、六郷は工場の町から暮らしの町に変わってきています。私たちのまち六郷は、六郷神社の創建時にさかのぼっても九百六十年以上の歴史を辿ることができます。暮らしている身近な場所に意外な歴史があります。これからも続いてゆく明日のために、今回は第一京浜国道（国道15号線）に沿って振り返ります。

出典

- ・六郷わがまち 第27号
- ・六郷今昔小誌 (平成13年度版)
- ・六郷今昔小誌 (平成24年度版)
- ・大田区ふるさと発見ブック
- ・大田の観光 秋 (大田観光協会) 2015No18

# トピックス

## 第五回美芸展

西六郷二丁目町会にお住いの方々育てた菊、つるし雛などを展示します。ぜひご来場ください。

日時：令和元年11月11日(月)～15日(金)  
10時～16時  
会場：六郷地域力推進センター 1階ロビー



## 六郷ふれあいフェスタ

～新時代への躍動～

日時：令和2年2月23日(日)  
会場：六郷地域力推進センター  
岩崎恭子さんの講演会や、ドローン操作体験など楽しい企画が盛りだくさん！同日雑色商店街でも企画を実施予定です。ぜひご来場ください！



岩崎恭子さん 昨年の模擬店の様子



今年もふわふわトランポリンがあります！

# 小説の中の六郷わがまち

私たちの暮らす六郷地区に欠かすことが出来ない多摩川。徳川家康の命により、橋が架けられました。それから幾度となく橋は流され、約二百年に渡り「渡し船」が往来し、六郷は江戸への玄関口となり、江戸城、日本橋へと続いていました。そんな六郷は多くの時代小説や現代小説にも登場します。それらをヒントに、意外と知られていない地域の由来やエピソードを紹介します。(太字は小説引用部分です)

「六郷」の名付けの由来は諸説ありますが、江戸時代の『新編武蔵風土記稿』に八幡塚、高畑、古川、町屋、道塚、雑色の六村が六郷村という一つの村であったと述べられています。その後、昭和7年に東京市に合併し蒲田区六郷町となりました。



六郷という町は、東六郷、西六郷、仲六郷、南六郷から成り立っていて、北六郷がない。羽田方面から川沿いに東、南、仲、ときて、JRを越えた山武ハネウエルという会社があるあたりが西。そのならびの町の北側が雑色町と鉢合わせしているため「北無し」になったのではないか。(田中政雄著・『わが町あれこれ第10号』)

雑色は、古代律令国家時代から、宮中の雑役などをする役目の事と呼んでいましたが、雑色町の確たる由来は不明です。地域的には、東六郷二丁目、南六郷一、二、三丁目地域あたりですが、今では京急の雑色駅や商店街などに名を残しているのみです。



生まれて初めてこの雑色という変わった名前の駅で京急線を降りた。(中略)短いアーケード街をくぐり抜け、交通量の多い第一京浜(国道15号線)を渡り、路地を三つばかり曲がると、道路を挟んで東六郷小学校の向側に三信交通の看板が見えてくる。(山田清機著・『東京タクシードライバー』)

六郷地域の町会名には、東・西・南・仲の冠がついていますが、宮本町会にはついていません。その由来は六郷神社(八幡宮)の傍に存在するからでしょうか？現在の第一京浜国道に沿って六郷神社前から六郷橋に続く脇道に旧東海道の名残があります。



行列を組んだ阿蘭陀商館長一行は、土手が上がって江戸への最後の道を辿っていった。(佐伯泰英著・『居眠り警音江戸双紙』)

雑色から六郷土手よりの車窓右手に、グリコの大きな看板が遠望できたが、それがいつ頃からあったものかいつ頃の印象だったのか、さだかでない。(中略)今は高いマンションや家並に隠れて、京浜急行の車窓からは目を凝らしても見えない(石川利夫著・『昭和の風景』)



今年3月に、発刊された堂場瞬一著『割れた誇り』の中に描かれた：

六郷橋は東京と神奈川の県境、多摩川にかかる第一京浜の橋である。全長443・7メートル。この辺で車で走ったことがない人でも、箱根駅伝の中継でみたことがあるかもしれない。駅伝のテレビ中継の視聴率を考えると、ある意味東京で一番有名な橋だ。



：新春の青空と六郷橋、思い浮かびますよね。

## 編集後記

なぜ雑色という名前がついたのかしら？たまたま読んでいた小説に雑色の地名の由来がありました。そこで、わがまちについて調べてみると、昔の事や知らなかった事にわくわく！今までになく大変な取材でしたが、六郷はすっかり私たちのふるさとなっていました。

浅賀(南三) 村野(東二) 有田(仲四) 五十嵐(高畑)